

職員による自己評価

A 「業務改善」について

アンケート等により把握した保護者の意向等は、会議で共有し業務改善に繋げている。
研修について、コロナで直接開催は少ないですが、ZOOM等の開催で、逆に参加しやすくなった。
療育についての研修がもう少しあってよいと思う。

B 「適切な支援の提供」について

プログラムは固定化されているが、内容を試行錯誤しながら進めている。
日々、グループ記録で動線を把握し、記録をもとに振り返りを行っている。

C 「関係機関との連携」について

療育参観、訪問を実施している。

D 「保護者への説明責任等」について

子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達の配慮として、生活リズム表や連絡表を活用している。
おたよりを毎月発行しているが、センター全体としてはHP充実が望ましい。

E 「非常時等の対応」について

避難訓練は実施しているが、マニュアルの周知は不十分だと思う。

保護者による評価

A 「適切な支援の提供」について

できているとの評価は94%。
支援計画は項目ごとに細かく計画されていて、課題がわかりやすい。
集まりのお歌やプログラムの中身を都度変えてくれているので飽きない。

B 「保護者への説明等」について

できているとの評価は96%。
子どものことをよく見てくれて、できたことできなかったことを伝えてくれている。
悩んでいることに対して話を聞いてくれ、対策を考えてくれて助かっている。
他のクラスのママさんと関わられるよう、機会、時間を設けてくれている。
HPは拝見していないのでわかりませんが、おたよりはわかりやすい。

C 「非常時の対応」について

できているとの評価は88%。
緊急時対応等のマニュアルについて、園長、担任が定期的に周知・説明してくれている。
あまり避難訓練が実施されていないように思える。

D 「満足度」について

満足との評価は94%。
楽しく通わせて頂いている。
大変満足している。

事業所内での分析

- 今年度も昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症感染予防対策を行いながらの集団療育となったが、with コロナの考え方の中、試行錯誤の上、実施してきた。
- コロナ禍が続き制約があり難しかったが、プログラムを工夫し、お子さんの発達に応じた対応ができている。
- コロナ禍が続き、今年度も親の会の活動は難しく、保護者同士の交流の場の設定は十分にできなかった。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- 障害がある子どもが自分を表出し、自分らしく生きられるよう支援している。
子どもが主体的に活動できるような「できる」「わかる」環境を設定し、子どもが自分の思いを表出して、自分で「できる」達成感を感じ、人と関わったり助けを求めたりする関係ができるように支援している。
- 保護者が安心して地域で生活していけるように支援している。
個人面談を実施するとともに、親子通園時には療育での子どもの様子を見てもらって説明し、保護者が家庭での支援に生かせるようにしている。連絡帳や日々の会話で保護者の思いを聞き取り、就学などの個別の相談にのり、就学後の相談にも応じている。様々なテーマで保護者教室や療育講座を実施して必要な情報を提供し、保護者が見通しをもってその後のライフステージを乗り越えて行けるよう支援している。
- 他職種間でチームアプローチし、それぞれの専門性を療育に生かしている。
センターでは、各課に専門職を配置し、多職種で連携して子どもの支援にあたっている。

事業所の改善点

- 新しい療育のあり方に向けての取り組みをさらに進めていくことが必要である。
センターでは近年の新規申込件数の増加を受けて、課題ごとに検討班を編成して新しい療育体制作りに向けて検討を重ねている。診療までの時間がかかるため第一次支援に力を入れ、申し込み後の面談でソーシャルワーカーが、子ども・保護者のニーズを把握し、通園している保育所・幼稚園を訪問してアドバイスをするなど、地域の障害のある子どもたち及び保護者が専門性のある支援を受けられるように努めているが、人員体制や資金面での限界もあり課題となっている。地域集団で生活する子ども向けの間接支援の強化など、検討中の取り組みをさらに進めていき新しい療育体制を構築する必要がある。
- 感染防止対策を講じた上での保護者同士の交流については、引き続き支援を工夫していく必要がある。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

保護者からの貴重なご意見をいただき、多くの課題が抽出できたのは非常に良かったと思います。

新型コロナウイルス感染症感染予防対策を行いながら、with コロナの考え方の中、行事、プログラムを試行錯誤の上、実施してきました。

今後も「子どもの療育」「保護者支援」の二本柱を大切に、利用者本位のサービス提供に向けて、職員一同精一杯取り組んでいきます。

アンケートにご協力いただきありがとうございました。

職員による自己評価

- A「業務改善」について
アンケート等の保護者からの意見を業務改善につなげている。
- B「適切な支援の提供」について
ミーティングや個々のカンファレンスを通して情報を共有し、支援につなげている。
- C「関係機関との連携」について
今年度もコロナの影響で、本来実施していた関係機関への支援が十分にできなかった。
- D「保護者への説明責任等」について
面談や親子日等に、保護者と子どもの状況・課題について、共通理解を図っている。今年度もコロナ禍で保護者同士の連携への支援は難しかった。
- E「非常時等の対応」について
避難訓練について、コロナ禍でクラスを分散して実施しているため、利用児1人当たりの頻度が限られている。

保護者による評価

- A「適切な支援の提供」について
できているとの評価は100%。
支援計画が細かく書かれていて、私たちのニーズをしっかりとヒアリングして実行している。
活動プログラムについて、毎週違うプログラムを行っている。
活動プログラムについて、工夫がたくさんされている。
- B「保護者への説明等」について
できているとの評価は91%。
子どもの状況について、毎週細かく聞いてくださるので共有できている。
週1回の通園なので、親の会の活動についてはよくわからない。
- C「非常時の対応」について
できているとの評価は78%。
避難訓練についての評価項目では、わからないとの回答が25%あった。
- D「満足度」について
満足との評価は94%。

事業所内での分析

- お子さんへの適切な支援の提供と保護者への丁寧な説明が、「適切な支援の提供」についての高評価につながっている。
- 今年度も昨年度に引き続きコロナウイルス感染症拡大により、感染防止対策を徹底しながらの肢体不自由児への給食提供は難しかった。
- 今年度もコロナ禍の状況に配慮した避難訓練の実施であり、一人当たりの訓練頻度少ないことが、非常時の対応についての評価が低い要因となっている。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- 障害がある子どもが自分を表出し、自分らしく生きられるよう支援している。
子どもが主体的に活動できるような「できる」「わかる」環境を設定し、子どもが自分の思いを表出して、自分で「できる」達成感を感じ、人と関わったり助けを求めたりする関係ができるように支援している。
- 保護者が安心して地域で生活していけるように支援している。
個人面談を実施するとともに、親子通園時には療育での子どもの様子を見てもらって説明し、保護者が家庭での支援に生かせるようにしている。連絡帳や日々の会話で保護者の思いを聞き取り、就学などの個別の相談にのり、就学後の相談にも応じている。様々なテーマで保護者教室や療育講座を実施して必要な情報を提供し、保護者が見通しをもってその後のライフステージを乗り越えて行けるよう支援している。
- 他職種間でチームアプローチし、それぞれの専門性を療育に生かしている。
センターでは、各課に専門職を配置し、多職種で連携して子どもの支援にあたっている。

事業所の改善点

- 新しい療育のあり方に向けての取り組みをさらに進めていくことが必要である。
センターでは近年の新規申込件数の増加を受けて、課題ごとに検討班を編成して新しい療育体制作りに向けて検討を重ねている。診療までの時間がかかるため第一次支援に力を入れ、申し込み後の面談でソーシャルワーカーが、子ども・保護者のニーズを把握し、通園している保育所・幼稚園を訪問してアドバイスをするなど、地域の障害のある子どもたち及び保護者が専門性のある支援を受けられるように努めているが、人員体制や資金面での限界もあり課題となっている。地域集団で生活する子ども向けの間接支援の強化など、検討中の取り組みをさらに進めていき新しい療育体制を構築する必要がある。
- 重度肢体不自由児、医療ケア児が多い状況に合わせて、感染対策を十分に行いながら安心・安全な療育を適切な頻度で行う工夫が必要であり、避難訓練など園の取り組みについて、利用者に積極的に発信していく必要がある。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

保護者からの貴重なご意見をいただき、多くの課題が抽出できたのは非常に良かったと思います。

新型コロナウイルス感染症感染予防対策を行いながら、with コロナの考え方の中、行事、プログラムを試行錯誤の上、実施してきました。

今後も「子どもの療育」「保護者支援」の二本柱を大切に、利用者本位のサービス提供に向けて、職員一同精一杯取り組んでいきます。

アンケートにご協力いただきありがとうございました。

職員による自己評価

A 「業務改善」について

立案した目標に沿った振り返りが毎日行
えている。
職員研修について、もう少し機会があると
良い。

B 「適切な支援の提供」について

ミーティング、各クラスのカンファレンス
がしっかりと行われ、各クラスの状況に合
わせた活動プログラムを設定している。

C 「関係機関との連携」について

必要に応じて保育所等と情報共有を行っ
ている。

D 「保護者への説明責任等」について

連絡帳や定期的な面談を通して、子ども
の状況、課題について共有し、保護者から
の相談に応じている。
保護者間の連携への支援については、今年
度もコロナの影響で充分ではない。

E 「非常時等の対応」について

マニュアルは整備されているが、保護者へ
の周知が不十分。

保護者による評価

A 「適切な支援の提供」について

できているとの評価は100%。
毎回、色々なプログラムを準備してくれて
いる。
毎回、子どもに興味を持てるような工夫が
すごくなされている。
先生方がすごく考えてくださっている。

B 「保護者への説明等」について

できているとの評価は90%。
幼稚園とも連携してくれて、相談にのっ
ていただいた。
民間の児発では個人の面談はないので、す
ごく手厚いサポートだと感じている。
コロナの影響で勉強会がオンラインになっ
たこともあり、話し合える機会が少し減っ
た印象。
連絡帳の存在がとてもありがたく、助けて
いただいた。
他の保護者の方ともっと意見交換できる場
が欲しい。
コロナで集団、話し合うことが難しい。

C 「非常時の対応」について

できているとの評価は91%。
防犯マニュアルについてはよくわからない。

D 「満足度」について

満足との評価は99%。
「子どもは通所を楽しみにしているか」に
全員が「はい」と回答。

事業所内での分析

- お子さんへの適切な支援の提供と保護者への丁寧な説明が、「適切な支援の提供」についての高評価につながっている。
- 今年度も昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症感染予防対策を行いながらの集団療育となったが、with コロナの考え方の中、試行錯誤の上、実施してきた。
- 今年度もコロナ禍であり、保護者同士の交流の場の提供が十分ではなかった。
- 「満足度」については、保護者から高い評価をいただいている。今後も質の高いプログラムを提供していく。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- 一人ひとりのお子さんに適した支援を実施している
診察・各種評価の結果を基に、療育プランを作成し、保護者の意向も踏まえ、一人ひとりのお子さんの支援計画を作成している。併せて、作成した計画に基づいて他部門と連携し、お子さんに適した支援を実施している。
- 保護者支援の充実に努めている
定期的な面談等を通して、お子さんに対する理解を深めていただき、より良い療育効果が発揮できるよう努めている。
- 他職種間との情報共有を行い、より良い支援に努めている
他職種と定期的に情報共有を行うことにより、多方面からの支援体制が確立できている。

事業所の改善点

- 両親就労家庭の増加等、保護者のニーズの多様化に対応して、家庭や地域生活がより安定するよう支援していく必要がある。
- 新型コロナウイルスの影響がまだまだ続く中で、保護者同士の連携についての支援が難しい状況が続いており、保護者連携のあり方について、さらなる検討が必要である。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

保護者からの貴重なご意見をいただき、多くの課題が抽出できたのは非常に良かったと思います。

新型コロナウイルス感染症感染予防対策を行いながら、with コロナの考え方の中、行事、プログラムを試行錯誤の上、実施してきました。

今後も「子どもの療育」「保護者支援」の二本柱を大切にし、利用者本位のサービス提供に向けて、職員一同精一杯取り組んでいきます。

アンケートにご協力いただきありがとうございました。